

第 17 回 県民対象のイベントでパネリストとして語る

～ 神奈川県教育委員会かながわ人づくり推進ネットワーク共催
「かながわ人づくりコラボ 2019」へパネリストとして参加 ～

今年 11 月 2 日（土）に行われた神奈川県教育委員会かながわ人づくり推進ネットワーク共催「かながわ人づくりコラボ 2019」へパネリストとして参加した 1 年丹羽さんに話を伺いました。

最初にお聞きしますが、参加のきっかけは何だったのですか。

隣にある保土ヶ谷養護学校で行われる予定だったスポーツを通してのかながわ教育月間フォーラムへの参加依頼が生徒会に来ており、教師の仕事に興味のある生徒を対象としていたので、手を挙げました。しかし、これが台風で中止となり、その後、かながわ人づくりコラボ 2019 へのパネリストとしての参加の依頼が担任の先生を通して私にありました。台風で中止になったイベントの参加に手を挙げたことから私に話が来たんだと思います。



コラボに参加するに当たって準備したことは何ですか。

保土ヶ谷養護学校の先生との事前の打合せをした時に、当日話すことを考えておいてくださいと言われました。そこで、私個人の意見だけではなく、一緒にボッチャ（ヨーロッパで生まれた障がい者のために考案されたスポーツ）の交流に参加したクラスの生徒たちの意見も集めました。ボッチャの交流と授業の交流の 2 つの場面があったので、それぞれについての意見を聞き、集約しました。

コラボに参加してどのように感じましたか。

思ったほど多く話す時間がなかったです。ただ、今まで、同世代向けのイベントにしか参加したことがなく、このように大人向けのイベントで話をしたのは初めてだったので、大変感動しました。山本さん（アーチェリー選手の山本博氏）の講演も、特に文武両道の必要性についての話が私には深く響きました。

今回コラボに参加して何か学んだことはありましたか。

私は今まで、障がいのある方と接したことがほとんどありませんでした。しかし、このコラボへの参加を通して、共生社会の実現を目指して活動している人たちがいるということを知りました。企業等への採用という側面だけではなく、人と人との関わりを大事にす

ることでよりよい社会の構築につなげていくことが大切で、このことに保土ヶ谷養護学校の先生方が一生懸命取り組んでいらっしゃるということに大きな衝撃を受けました。

とても大きなことを学んだようですね。ところで、光陵高校へはなぜ進学しようと考えたのですか。

出身中学校（横浜国立大学附属横浜中学校）で行っていた TOFY（総合的な学習の時間）という探究活動が大変で、はじめはすごく嫌でした。ところが、研究成果物が完成した時に大きな達成感を感じ、また普段の勉強だけでは得られないものがあると感じました。そして、さらに探究活動をしたと思いました。光陵高校への連携枠という入学者選抜制度もあるので、光陵高校へ進学し、光陵高校が行っている KU（光陵ユニバース：総合的な探究の時間）で探究活動をさらに深めたいと思いました。



光陵高校に入学して9ヶ月経ちますが、どのような心境ですか。

いろいろな変化があり、その都度一生懸命対応しています。自分自身が成長途上なんだと感じます。中学校の時に放送委員会に入っており大変精力的に活動していました。高校では委員会活動が定期的に行われていなかったのも、生徒会を見学しました。この時、先輩方が学校をよりよくしたいということを熱く語っていたのが印象的でした。ここに入ったら面白いのではないかと思い、生徒会に入ることを決めました。本日の校内放送（生徒会主催の番組を昼休みに放送。）に関しても、その作成や運営に私が携わらせていただきました。生徒会の活動に大きなやりがいを感じています。

将来の展望を聞かせてください。

人のためになることをやりたいと思います。間接的ではなく直接人と関わり合う仕事がしたいです。具体的には、教師または医師です。医師に興味があることから、AEDの講習会には積極的に参加しており、その中で、不十分な知識と技能だけでは、本当に人を救えるのかどうか分からないと感じ、より多くの人を助けるための講習会の在り方について、このことを KU の研究テーマとし、考えました。なお、教師、医師のいずれの職業に就くかは、今はまだ迷っています。

分かりました。人のために生きることが丹羽さんの目標なのですね。是非夢をつかんでください。今日はどうもありがとうございました。

※ 第17回の「群青の風」は、副校長（蘇武 和成）によりお送りしております。